

(こくさいか山口 2004年7→9月号掲載記事)

～勉強熱心な韓国人。さて私たちは？～

下関市総合政策部国際交流課
(釜山広域市派遣職員)
古川 力

韓国に来て非常にびっくりしたのは、韓国の人たちが勉強熱心なことです。今回は私が感じた韓国の勉強熱について書いてみたいと思います。

日本でも紹介されているとおり、ここ韓国の受験競争は熾烈です。まだ私は釜山に赴任して以降、「受験戦争」たるものを目にはおりませんが、数年前、秋に当地を訪れた際、釜山の有名なお寺でたくさんの受験生の母親たちがいわゆる「お百度まいり」をしていたのを思い出します。ここ韓国での仏教の礼拝は「起立してひれ伏す」の繰り返しです。何十分、何時間しているのか、わかりませんが、わが子の合格を祈って、受験シーズンになるとこのようにおまいりをする方がたくさんおられるそうです。

子供たちもまた大変です。朝、家を出る時に、お弁当を二つ（昼用と夜用）を持っていく子供たちも少なくないそうです。私が住む水営区南川洞の通勤路沿いにも、数多くの学習塾があります。よく「夜型」と呼ばれる韓国人ですが、まんざら嘘ではありません。夜10時になっても小中学生の子供たちが通りをうろうろしていますし、学習塾から飛び出して走り回っています。それから、繁華街の西面や南浦洞に出かける子供たちもいるとか。「夜遊び」は、あまりいいことだとは思いませんが、元気に夜遅くまで遊ぶ子供たちを見ていると、「家の人は心配していないの？」「どうして眠たくないの？」その数のあまりの多さに不思議な感覚を覚えます。もちろん、夜遅くまで塾で勉強して、それから帰ってまた家で勉強する子もいることでしょう。どうしてそんなに元気なの？と思うのは私だけでしょうか？そこまでのできるパワーの源は、やはり、キムチやニンニクによるものなのでしょうか？



市内のあちこちで見かけるハグオン(塾)。
朝早くから夜遅くまで開講し、沢山の人が学んでいます。

子供たちの多くは大学を卒業し、社会人になっても、勉強を続けるようです。

釜山市庁(市役所)においても、仕事を続けながら、大学や大学院で勉強する人たち、日本語や英語の語学学校に通う人たちは少なくありません。法律や自分の専門分野の日本の書籍を購入し、読んでいる人もたくさんいます。無論、日本語だけではありません。英語だって同じです。いろいろな知識や資格を身につけ、仕事や昇進に生かす、といえは当たり前なのかもしれませんが、とにかく頭が下がります。

特に語学の学習熱はすごいですね。日本人がここ韓国に来てまず一番びっくりすることの一つに、韓国では予想以上に日本語が通じてしまうこと、があると思いますが、とにかく日本語の上手な人はたくさんいます。観光地や著名な施設でしたら、ちょっとした買い物なら、ほとんど日本語で事が足ります。

日本人が韓国に行っても日本語は通じる。しかし韓国人が日本に来て韓国語はあまり通じない。このような現在の状況はなんとなく対等でないような気がします。

私の地元、下関市には「グリーンモール」という、チャイナタウンならぬ「コリアンタウン」があり、そこは無論韓国人観光客でも韓国語でショッピングや食事のできるお店がたくさんありますが、その他の地域ではどうしても韓国語で対応できる観光施設や店舗は少ないのが実情です。英語についても2002年に開催されたIWC(国際捕鯨委員会)をきっかけに英語学習にも力を入れ始めた施設が増えてきているようですが、韓国語となるとまだこれから、といったところではないでしょうか。

世界の主要国である日本とそのレベルに猛然と接近している韓国。両国のコミュニケーション能力を客観的に見ると、現在韓国の方がやや優位にいるように思います。私も韓国の人たちに負けないよう、対等に韓国語で話ができるよう、頑張らねばと思っているところです。

日本では、NHKが人気韓国ドラマの通算4回目の放送を決めたとのことで、韓国ドラマ熱はさらに盛り上がっているようです。ドラマの台本を教科書にして韓国語の授業を行っている語学学校も出てきているとか。本稿をご覧の皆様の中にもドラマをご覧になって感銘を受けた方が多数いらっしゃると思います。

来年は日韓国交正常化40周年、「日韓友情年」です。おそらく今までになく多くの日韓両国の国民が行き交うはず。韓国ドラマを見て受けた感動から、韓国をもう少し知るために、ここで一つ、韓国語の勉強を始めてみる、というのはどうでしょう？最初は幾何学模様(?)のように見えるハングルが読めるようになるだけでも一味違ってくること請け合いだと思います。